

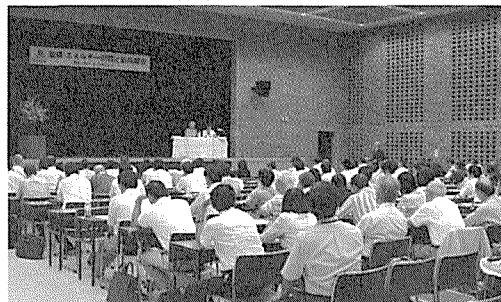
8

「環境・エネルギー問題と協同組合」講演の開催報告



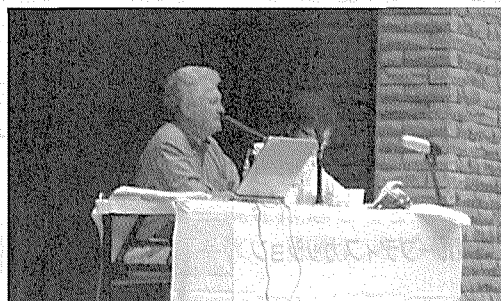
今年は国連が定めた「国際協同組合年」です。協同組合は、環境問題に関する役割についても期待されています。今の社会の中で協同組合や生協が環境に対して、どのような役割が果たせるのかを考えようと、9月8日(土)に生活文化センターで講演会を行いました。

講師は、(米)パークレー生協(1988年解散)の「コープ・ニュース」の元編集者で、1988年の賀川豊彦生誕100年を記念して出版された「賀川豊彦 愛と社会正義の使徒」の著者でもあるロバート・シルジェン氏で、当日は、総代、コープ委員や役員・職員、兵庫県その他の協同組合関係者を含む155人が参加しました。



1. 講演内容(抜粋)

- ①協同組合が協同してエネルギーの使用量を減らし、エネルギーコストを削減できれば節約分を組合員に還元できる。最も優先すべきは「資源の利用を削減する」こと、二番目は「再使用」、三番目は「リサイクル」である。容器の洗浄と再使用はリサイクルするよりはるかに効率が良い。
- ②個人における省エネルギーを支援し、どうすれば個人レベルのエネルギー使用量を削減できるかを協同組合は考えなければならない。
- ③エネルギー計測器の販売強化とエネルギー監査サービス、CO₂の削減に貢献する商品を購入する「カーボンオフセットショッピング」も検討すべきだ。
- ④電気協同組合は化石燃料や原子力に替わるエネルギーを積極的に開発しており、世界は風力発電と太陽光発電に向かっている。クリーンエネルギー会社は協同組合が担うべきだ。
- ⑤エネルギーには、水力、原子力、天然ガス、風力や太陽光などの再生可能エネルギーに加えて、第5のエネルギーとして、協同組合が取り組むエネルギーの節約運動がある。節電はエネルギーを作り出すことと同じ効果がある。
- ⑥環境・エネルギー問題に対して組合員とともに取り組むことが協同組合の役割だ。



2. 会場参加者からの質問に対するコメント(抜粋)

- ①長期に渡る節電が必要だ。日本の原子力発電の割合は26%。東京での講演会のときに個人で24%も昨年より節電できたという方もいた。原発をなくすことは可能だ。
- ②第5のエネルギーといわれる「節電」を、楽しくワクワクして取り組める仕掛けが重要だ。節電に挑戦するコンペや節電の競争などの工夫が必要だ。
- ③よりシンプルな生活こそ楽しく、豊かさを得ることになる。
- ④便利さを追求すると余計なコストがかかるので、よりシンプルなものの追求が大切だ。
- ⑤コープは他の人と一緒に働き、ともにアイデアを作り上げるところだ。そのことを通じて自分自身が恩恵を得ることができる。
- ⑥人々に精神的に豊かになったと感じてもらうことが重要だ。例えば栄養士による教育は楽しい。受講した人はよりヘルシーな生活が出来るようになるので、ハッピーになれる。

(組織政策推進室)